

図書館TAとともに創るパスファインダー：九州大学 附属図書館のWeb学習ガイドCute.Guidesを例に

星子, 奈美
九州大学附属図書館学術サポート課学習・研究支援係

渡邊, 由紀子
九州大学附属図書館学術サポート課

<https://doi.org/10.15017/4061015>

出版情報：九州大学附属図書館研究開発室年報. 2019/2020, pp.27-36, 2020-07. 九州大学附属図書館
バージョン：
権利関係：Creative Commons Attribution-NonCommercial-NoDerivatives 4.0 International

図書館 TA とともに創るパスファインダー —九州大学附属図書館の Web 学習ガイド Cute.Guides を例に—

星子 奈美[†] 渡邊 由紀子[‡]

<抄録>

2020 年初頭からの新型コロナウイルス感染拡大の影響により、大学は遠隔授業や自宅学習をベースとする新たな学習・教育のスタイルを模索しており、大学図書館においても、パスファインダーのように利用者のニーズを予測して情報を提供するレファレンスサービスが一層求められる状況にある。本稿は、電子環境下で重要性を増す能動的なレファレンスサービスの充実に資するために、ウェブ上のパスファインダーの一例として、LibGuides を活用した九州大学附属図書館の Web 学習ガイド Cute.Guides を取り上げ、その管理とサービス提供の実践を通して得られた知見を共有することを目的とする。九州大学附属図書館が LibGuides を導入した背景と経緯、Web 学習ガイド Cute.Guides の特徴と運用状況、国立国会図書館のレファレンス協同データベースとの連携、Cute.Guides に対する評価や今後の課題について考察した結果、ウェブ上のパスファインダーの管理と提供において、学生協働およびレファレンス協同データベースとの連携が有効であることを確認した。

<キーワード> レファレンスサービス, パスファインダー, 九州大学附属図書館, 図書館 TA(Cuter), 学習支援, 学生協働, ピアサポート, レファレンス協同データベース, LibGuides, Cute.Guides, reference and information services, pathfinder, library teaching assistant, learning support, peer support, study guide, Collaborative Reference Database

Creating Pathfinders in Collaboration with Library Teaching Assistants —From the Case of “Cute.Guides”, a Web-Based Study Guide at Kyushu University Library—

HOSHIKO Nami WATANABE Yukiko

1. はじめに

2020 年初頭から、新型コロナウイルス感染拡大の影響により、世界中の大学や大学図書館で緊急的なキャンパスの閉鎖や図書館の閉館を余儀なくされた。この影響が長期的に続いた場合、大学では遠隔授業や自宅学習をベースとする新たな学習・教育のスタイルを模索していくことになるであろう。大学図書館においても、ウェブ上でのサービスの重要性が増し、パスファインダーのように利用者のニーズを予測して情報を提供する能動的なレファレンスサービスが一層求められる状況にある。

図書館のパスファインダー(pathfinder)は、一般的には、「利用者に対して、特定の主題に関する各種情報資源やその探索方法などを紹介・提供する初歩的なツール」であり、「当初は一枚物のリーフレットとして提供されたが、現在では図書館ウェブサイトから電子的にも提供される」ようになったものと定義される^[1]。日本語では「調べ案内」「調べ方ガイド」「調査ガイド」

などとも呼ばれ、その名称と定義は必ずしも一定していない^[2]。

ウェブ上のパスファインダーは、図書館に来館していない利用者に対しても情報提供できることに加え、オンライン上の関連情報に直接リンクできる点で紙媒体にはないメリットがある。日本の大学図書館では 2000 年代に入ってウェブ上でパスファインダーを公開する動きが進んだ。平成 14(2002)年に公開された愛知淑徳大学の「パスファインダー Pathfinder」^[3]は先駆的な例として知られ、同館職員による主題アクセスツールとしてのパスファインダーの理論や作成法に関する著作も多い^[4]。平成 20(2008)年 3 月の国内調査によると、中央館と分館の合計蔵書数が 100 万冊以上の大学図書館中央館のうち、国公立 26 館中 11 館(42%)、私立 29 館中 8 館(28%)、全体で 55 館中 19 館(35%)がウェブ上でパスファインダーを提供しており、国公立大学図書館を中心に普及してきた様子がうかがえる^[5]。

一方、平成 22(2010)年の科学技術・学術審議会学術

[†] ほしこ なみ 九州大学附属図書館 学術サポート課 学習・研究支援係 (〒819-0395 福岡市西区元岡 744) E-mail: hoshiko.nami.463@m.kyushu-u.ac.jp

[‡] わたなべ ゆきこ 九州大学附属図書館 学術サポート課/九州大学大学院統合新領域学府ライブラリーサイエンス専攻 (〒819-0395 福岡市西区元岡 744) E-mail: watanabe.yukiko.935@m.kyushu-u.ac.jp

情報基盤作業部会による「審議のまとめ」は、大学図書館職員に求められる資質・能力のひとつに、教育への関与における専門性を掲げ、大学図書館職員が教員や学生とコミュニケーションを図りながら教育課程の企画・実施に関わる必要性を指摘したうえで、特に、資料をよく知る大学図書館職員の専門性が発揮されるパスファインダーの作成等を、全ての授業科目に適用可能なものとして推奨している^[6]。例えば、千葉大学附属図書館の「授業資料ナビゲータ」^[7]は、図書館職員と授業担当教員が初年次教育の授業内容にあわせて共同作成した、参考文献や Web 情報の HTML 形式のリストである^{[8][9]}。また、大阪大学附属図書館の「パスファインダー」^[10]は、ラーニング・サポーター（旧・図書館 TA）の大学院生が中心となって、その専門を活かして各テーマの学習に役立つ資料やツールなどを紹介するリーフレットの PDF 版であり、キーワード検索や並べ替えが可能な画面から提供されている。

九州大学附属図書館は、LibGuides を活用した Web 学習ガイド Cute.Guides^[11]を平成 24(2012)年 6 月より試行公開し、平成 25(2013)年 3 月に正式公開した。図 1 は令和 2(2020)年 6 月現在の Cute.Guides トップページである。初学者による自律的な学びと図書館の利用促進を目的として、学習や研究に役立つ多様な情報を提供しており、記事の作成に図書館 TA(Cuter)の大学院生が中心的役割を果たしていることが大きな特徴である。

LibGuides^[12]は、米国 SpringShare 社が提供しているウェブベースのパスファインダー管理・提供サービスで、主題別のガイドを直感的な操作でウェブサイト上に作成でき、コンテンツの複製や再利用も容易といった特徴がある^[13]。令和 2(2020)年 6 月現在、LibGuides はハーバード大学図書館、オックスフォード大学ボドリアン図書館など、世界 99 か国の約 5,600 機関で導入されている。日本国内の導入機関としては、慶應義塾大学メディアセンター^{[14][15]}、早稲田大学図書館等の 9 機関が LibGuides 公式サイト^[6]に掲載されている。

本稿の目的は、電子環境下で重要性を増す能動的なレファレンスサービスの充実に資するために、ウェブ上のパスファインダーの一例として、LibGuides を活用した九州大学附属図書館の Web 学習ガイド

Cute.Guides を取り上げ、その管理とサービス提供の実践を通して得られた知見を共有することである。

本稿では、まず九州大学附属図書館が LibGuides を導入した経緯、Cute.Guides の特徴とこれまでの運用状況、外部データベースとの連携について詳しく確認し、続いて Cute.Guides の対外的な評価と今後の課題について述べ、最後に考察とまとめを行う。

2. 導入の背景と経緯

九州大学附属図書館がウェブ上のパスファインダーの導入検討を開始した背景には、平成 21(2009)年度から平成 29(2017)年度にかけて実施された、九州大学の「教育の質向上支援プログラム (Enhanced Education Program; EEP)」がある。EEP は、中期目標・中期計画に掲げる教育に関する目標・計画の達成に資する学内の部局等の主体的な取り組みを支援することにより、教員及び組織の教育力の向上を図り、教育改革を推進することを目的とする、学内公募型のプログラムであった。EEP の実施期間中に計 4 件の図書館に関する取り組みが継続的に採択され、それぞれ附属図書館とその付設教材開発センター、九州大学大学院統合新領域学府ライブラリーサイエンス専攻が一体となってプロジェクトチームを特別に組織し、新たな教育の在り方にふさわしい学習支援の環境整備を進めた^[17]。

ウェブ上のパスファインダーを導入した平成 23(2011)から 24(2012)年度は、EEP により「ICT による自律的学習・教育体制の構築」というプロジェクトを遂行中であった。このプロジェクトでは、ICT と学術情報基盤を活用した全学的な教育基盤の価値を最大限に生かし、自律的学習を促す教育を支援するため、学術情報利用に関する各種調査、教職員向けインストラクショナル・デザイン研修、学生協働による学習支援プログラムの開発・実施、e ラーニング教材の開発・開発支援・利用促進、学務関係組織との連携構築に取り組んだ。その中で「学術情報リテラシーを高めるためのツール別、主題別の e ラーニング教材の企画・開発・開発支援」を具体的計画の一つとして掲げていたことから、平成 23(2011)年 11 月、EEP の取組実施担当者であった附属図書館の e リソースサービス室 e リソースサポート係が、北米等の大学図書館で当時活用されていた LibGuides 導入の検討開始を提案した。

同年 12 月には、LibGuides のトライアルを早速開始した。当時 LibGuides は世界中の約 3,000 の大学等図書館で導入され、多言語表示にも対応していたが、日本での本運用の実績はなかった。まず EEP 取組担当者を中心とした図書館職員がトライアルを通してモデルコンテンツを作成し、システム検証を行った。



図 1 Cute.Guides トップページ

平成 24(2012)年 2 月には、図書館職員を対象とした LibGuides の学内説明会を開催した。説明会では、LibGuides の特徴と導入のメリットについて、以下のように説明していた。

(特徴)

- ・ブラウザだけで簡単に操作ができる
- ・他の人が作ったコンテンツを再利用できる
- ・動画などさまざまなメディアを利用できる
- ・ソーシャル・メディア対応
- ・スマートフォン対応

(メリット)

- ・コンテンツ作成者が分かるため、「顔の見える図書館」になる
- ・迅速に更新ができ、主題別の学習支援に役立つ
- ・図書館職員の主題に即した知識と発信力の向上が期待できる

学内説明会の終了後、サービス開始に向けた初期コンテンツ作成や、インタフェースのデザイン調整が e リソースサポート係を中心に進められることとなった。

並行して平成 24(2012)年 3 月には、EEP の取り組みの一環で大学院生 5 名を「図書館学習サポーター(Cuter)」として雇用し、学生協働による学習支援サービスを開始した。図書館学習サポーター(Cuter)が活動の一つとして LibGuides のコンテンツ作成に参画したことにより、サービスの正式公開に向けた初期コンテンツが蓄積された。Cuter は、その後令和 2(2020)年の現在に至るまで Cute.Guides のコンテンツ作成において中心的な役割を果たしている。これについては次章で詳述する。

以上の準備を経て、平成 24(2012)年 6 月よりサービス名称を「Cute.Guides」と定め、試行公開を開始し、平成 25(2013)年 3 月 28 日に図書館ウェブサイトの更新に合わせて「調べ方ガイド Cute.Guides」を正式公開した^[18]。公開時のコンテンツ数は 36 点であった。平成 30(2018)年 1 月 31 日には、LibGuides のバージョンアップに伴い、「学習ガイド Cute.Guides」のリニューアルを実施し、デザインや表示スピードが改善した^[19]。平成 31(2019)年 4 月 21 日には、「Cute.Guides 運用指針」^[20]を策定し、Cute.Guides のサービスを運用する中で確立したガイドの管理運営方針を明文化した。

3. Web 学習ガイド Cute.Guides の特徴

3.1. ガイド点数とアクセス数の推移

Cute.Guides の運用開始以来、公開するガイドの点数、アクセス数はいずれも年々増加している。令和 2(2020)年 3 月 31 日現在、179 点のガイドを Cute.Guides から公開しており、このうち約 76%の 136 点が図書館

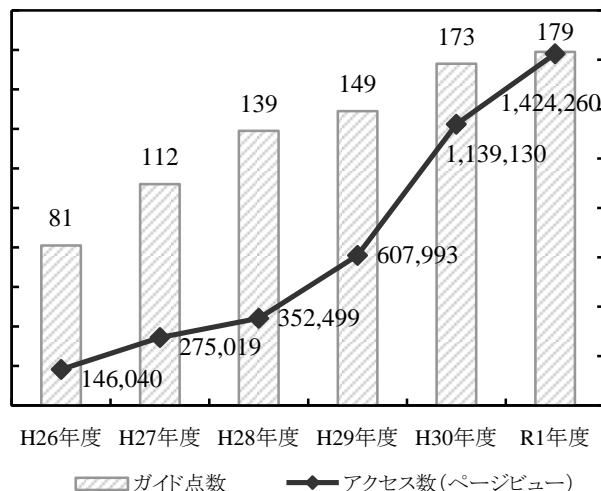


図 2 ガイド点数とアクセス数の推移



図 3 令和元(2019)年度に最もアクセスされたガイド
微生物の世界 (検査専攻向き・細菌編)

TA(Cuter)の作成したガイドである。図 2 に示すとおり、正式公開直後の平成 26(2014)年度と比較して、ガイド点数は約 2 倍、アクセス数は約 10 倍となった。令和元(2019)年度に最もアクセスされた図 3 のガイド「微生物の世界 (検査専攻向き・細菌編)」^[21]は、1 年で 12 万件以上のページビューを獲得した。

なお、公開中のガイドのほかにも、限定公開および非公開のガイドもある。限定公開ガイドは、授業と連携した課題文献リストの作成や、ガイド公開前の査読や検証に使用しており、ガイド記事の URL を知るのみアクセスできるガイドである。非公開ガイドは、作成中のガイドもしくは公開後に内容が古くなった等の理由で取り下げたガイド等である。

3.2. ガイド記事の種類

LibGuides のシステム仕様により、各ガイド記事は General Purpose / Course Guide / Subject Guide / Topic Guide / Internal Guide / Template Guide の 6 つの“Guides Type”のいずれかに属し、トップページでカテゴリご

とに一覧表示される。ただし、Internal Guide と Template Guide は内部使用を前提とした“Guides Type”であるため、トップページに表示されるのは4タイプのみである^[22]。Cute.Guides の場合、この4つの“Guides Type”を、初学者の学習支援と図書館の利用促進というサービスの提供目的に沿って、「学習・研究スキル」「専門トピック」「語学・留学・履修・進路」「資料紹介・読書案内」と日本語に翻訳し利用している。

「学習・研究スキル」のガイド記事には、図書館が提供するサービスの利用案内や、実験や論文投稿など研究者としての基本スキルに関するガイドを配置している。「学外から電子ジャーナルやデータベースにアクセスするには」^[23]「電子ブックの探し方」^[24]等のガイドは、新型コロナウイルス感染拡大の影響により、図書館が臨時休館する中で、自宅で使える図書館サービスを紹介する際に役立った。

「専門トピック」のガイド記事には、図書館 TA(Cuter)が学生ならではの視点で、自身の専門や関心を生かしたガイドが数多くあり、Cute.Guides の大きな特徴となっている。「★音響生が解説！立体音響ってなに？」^[25]「★DNA って何だろう？」^[26]のように、図書館職員ではカバーすることが難しいトピックに関するガイドが年々蓄積されている。

「語学・留学・履修・進路」のガイド記事としては、語学の修得方法や資格の取り方、就職活動など、学生にとって身近なトピックに関するガイドを公開しており、図書館 TA(Cuter)が直接相談に乗ってくれているような、親しみやすさや臨場感を感じられるガイドとなっている。

「資料紹介・読書案内」のガイドでは、図書館が所蔵する貴重資料や、図書館 TA(Cuter)が薦めたい書籍などを紹介している。また、図 4-1 および 4-2 のように、館内での図書展示と連動してガイド記事を公開する事例もある。図書館 TA(Cuter)が考えて設定したテーマに



図 4-1 Cuter 本棚の図書展示



図 4-2 Cuter 本棚のガイド

関するおすすめの本を選び、紹介文と共に図書館内に展示する企画「Cuter 本棚」^[27]では、各回の推薦図書と紹介文を Cute.Guides 上でも公開している。

令和 2(2020)年 5 月には、新型コロナウイルス感染拡大の状況下において、新入生をはじめとする学部生の自宅学習における電子ブックの利用を支援するため、在宅勤務中の図書館職員と図書館 TA(Cuter)が協力して作成した、おすすめの電子ブックを紹介したガイド記事を「Cuter 本棚」のひとつとして公開した^[28]。

3.3. ガイド記事の作成者

前述の「Cute.Guides 運用指針」において、Cute.Guides のコンテンツを作成できる者を以下のとおり定めている。いずれの場合も、作成したガイドの著作権は九州大学附属図書館に帰属することを同指針に明示している。

- (1) 附属図書館に所属する教職員
 - (2) 附属図書館研究開発室員および協力教員
 - (3) 図書館 TA(Cuter)
 - (4) その他、附属図書館長が特に認めた者
- 公開中のガイド記事数が最も多いのは、3.1 で述べたとおり、公開中ガイドのうち約 76%を執筆している、図 5 のような図書館 TA(Cuter)たちである。



図 5 図書館 TA(Cuter)

図書館職員と図書館 TA(Cuter)との協働は、自律的学習の基盤となる図書館のサービスに学生の視点を取り入れるとともに、図書館 TA(Cuter)が図書館を活用するアクティブ・ラーナーのロールモデルとなり、ピアサポートを通じて学部生の学びの意欲を向上させること、また、図書館に自律的な学びの雰囲気を生み出すことを大きな目的としている。平成 27(2015)年 12 月に「九州大学ティーチング・アシスタント実施要項」が改正され、Cuter が全学生を対象とした授業外学習等の教育支援業務を行う TA として正式に位置付けられ、大学の教育制度の中に組み込まれた。この TA 化をアピールするため、Cuter の正式名称を「図書館学習サポーター」から「図書館 TA(Cuter)」に改めた¹⁶⁾。さらに、令和元(2019)年 10 月に開始した九州大学の新 TA 制度により、図書館 TA(Cuter)は「九州大学ティーチング・アシスタントに関する要項」で定められた、アドバンスド・ティーチング・アシスタント(ATA)に位置付けられることとなった。平成 24(2012)年 3 月当初、中央図書館のみで活動していた Cuter は、平成 27(2015)年 11 月に、中央、理系、医学、芸術工学の 4 図書館での活動へと規模を拡大した。その後、所属キャンパスの特性により学習相談件数が伸びなかった芸術工学図書館における活動を令和 2(2020)年 3 月をもって終了し、令和 2(2020)年 6 月現在、伊都地区の中央・理系図書館、病院地区の医学図書館に図書館 TA(Cuter)を 15 名配置している。

Cute.Guides のガイド作成は、図書館内の学習相談デスクで利用者の案内・指導、図書館講習会の補助および講師、学生交流イベントの企画・運営等とともに、図書館 TA(Cuter)の主要な業務の 1 つである。中央および理系図書館では、各図書館に設置された学習相談デスクでの相談対応の合間を縫って、図書館 TA(Cuter)が執筆に励んでいる。一方、医学図書館には学習相談デスクが設置されていないため、ガイド記事の作成が主たる業務である。

令和元(2019)年度末時点で、延べ約 80 名の図書館学習サポーター・図書館 TA(Cuter)が勤務し、ガイドを執筆してきた。彼ら全員が専門知識を持った大学院生であり、その専攻分野も文系から理系まで多岐にわたることから、まさにガイド作成者ひとりひとりの「顔が見える」、バラエティに富んだ個性的なガイドが、継続的に生産される仕組みが構築されている。

図書館職員は、図書館の利用やデータベースの使い方などの利用案内を作成する際に Cute.Guides を活用しているほか、附属図書館研究開発室のコンテンツ形成班に参画する職員が中心となり、貴重資料の解説や、過去に開催した展示会一覧など、図書館職員の専門知識を生かしたガイド作成を続けている。図書館職員に

よるガイド作成は、利用者にとって有用な情報となるだけでなく、LibGuides の導入検討時にメリットとして想定されていた「図書館職員の主題に即した知識と発信力の向上」にも役立っている。

教員もガイド作成者となることができるが、令和 2(2020)年 6 月現在公開中のガイドのうち、教員が主体となって作成したものは、付設記録資料館の三輪宗弘教授が作成した「アーカイブ情報あれこれ」¹²⁹⁾の 1 件のみである。なお、このガイド記事は『めからウロコの海外資料館めぐり』¹³⁰⁾というタイトルで書籍化されている。

コンテンツを作成できる者のうち「(4) その他、附属図書館長が特に認めた者」に相当する事例としては、過去に九州大学大学院統合新領域学府ライブラリーサイエンス専攻での「レファレンスサービス演習」の授業において、大学院生によって Cute.Guides を用いたパースファインダー作成実習が行われた例がある。

3.4. 想定するガイド読者

Web 学習ガイド導入の当初の目的が「学術情報リテラシーを高めるための主題別の e ラーニング教材」の開発であったことから、いずれのガイドも、学部生などの初学者を読者として想定している。「九大執筆者ガイドライン」¹³¹⁾では、ガイドの冒頭に概要や対象となる読者を記載すること、文字のフォントやカラー、レイアウトを意識し、読みやすさや見やすさに配慮すること、図書館 TA(Cuter)が執筆する場合は、ガイド作成者の氏名と所属身分を明記し、どのような専門知識を有しているのかが読者に分かるようにすること、等の留意事項を定めている。また、初学者による自律的な学びと図書館の利用を促すために、各ガイドで参考文献を紹介した上で、図書館の所蔵情報にリンクを設けている。さらに、内容の信頼性を保つため、ガイドには根拠となる情報源や記事の執筆者を明記している。情報源には図書館資料だけではなく、図書館 TA(Cuter)と図書館職員が確認し、信頼性があると判断した Web 上の情報等も含まれる。

3.5. ガイド記事の質保証

学習ガイドの質を保証する取り組みとして、図書館 TA(Cuter)が作成したガイドの場合、公開前に、図書館職員および図書館 TA(Cuter)同士で内容を確認するレビュープロセスを定めている。表 1 は、「私の卒論ができるまで」というガイドシリーズの執筆手順である。修士 1 年で新たに図書館 TA(Cuter)となった大学院生が最初に執筆するのがこのガイドで、LibGuides の操作方法を覚えながら、第三者による複数回の査読を受けてブラッシュアップされたガイドが公開されるプロセスとなっている。

表1 「私の卒論ができるまで」執筆手順

	ガイド作成手順	確認者
1.	構成メモ作成	全館 Cuter 担当係
2.	LibGuides の操作方法・ガイドラインを確認	
3.	LibGuides の作成者プロフィールを編集	
4.	ガイド執筆	
5.	第一次査読	全館 Cuter 担当係
6.	デザイン調整	
7.	第二次査読	学習・研究支援係
8.	第三次査読	Cuter 全員 全館 Cuter 担当係
9.	最終査読	学習・研究支援係
10.	ガイド公開	
11.	公開後の定期的なチェック	全館 Cuter 担当係

救命処置のように生命に関わる医療系の一部のガイドについては、十分な安全性を担保するため、教員からもチェックを受ける。一旦公開したガイドについても、定期的な内容チェックでコンテンツの正確性と最新性を保持するよう努めている。

また、ライブラリーサイエンス専攻修士課程の授業「レファレンスサービス論」では、Cute.Guides を対象としたパスファインダーの事例分析を行っている。受講する大学院生は、各自2から3件のガイドについて、目的、テーマ設定、情報源、記事内容といった観点から分析しレポートにまとめる。分析レポート成果発表の講評時には、授業に図書館職員が加わって意見交換し、大学院生から受けた指摘は図書館職員および図書館 TA(Cuter)で情報共有し、今後の改善へとつなげている。

ガイドの質を保証するもう一つの取り組みとして、「Cute.Guides 大賞」を毎年開催している。これは対象とする期間内に図書館 TA(Cuter)が新たに作成したガイドについて、図書館 TA(Cuter)および図書館職員による投票で優秀作を選定し、表彰を行うもので、選定されたガイドには、図6のようにタイトルの冒頭に★を表示し目印としている [32]。



図6 令和元(2019)年度 Cute.Guides 大賞 最優秀賞
★「動物の行動研究」入門

「Cute.Guides 大賞」の実施のメリットには、以下の点が挙げられる。

- ・ガイドの作成や図書館 TA(Cuter)としての業務に対するモチベーションが向上する
- ・良いガイドに対する評価を図書館職員と図書館 TA(Cuter)が共有することで、ガイド作成の指針となる
- ・良いガイドが量産されることで、アクセス数の高いガイドが増える

4. レファレンス協同データベースとの連携

令和元(2019)年7月には、新たな取り組みとして、国立国会図書館が全国の図書館等と協同で構築するレファレンス協同データベースに、学習ガイド Cute.Guides の各ガイドを“調べ方マニュアル”として公開した^[33]。これは、国立国会図書館職員の依田紀久氏から連携の可能性について提案されたことがきっかけとなり、実現したものである。レファレンス協同データベース事業事務局からの技術的助言を受けた上で、当時公開中のガイド152件へのリンク記事を一括登録し、以後、新たに公開するガイドについても随時追加している。レファレンス協同データベース上での Cute.Guides の画面表示例を図7に示す^[34]。

“調べ方マニュアル”へのデータの一括登録は、国立大学では初の事例となった。レファレンス協同データベースには、ウェブ上で誰でも利用できる一般用システムと、事業に参画する機関が利用する参加館用システムがあり、図8のとおり、公開開始した令和元(2019)年7月は、一般用システムでの参照数が1か月



図7 レファレンス協同データベースでの画面表示例

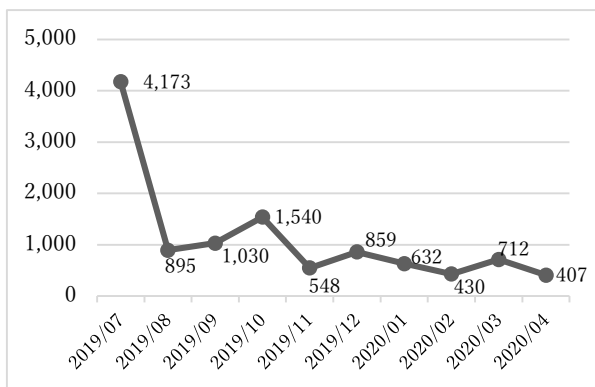


図8 レファレンス協同データベース一般用システムでの参照数推移

間で4,173件にのぼった。以後、令和元(2019)年8月から令和2(2020)年4月の平均参照数は784件である。レファレンス協同データベースに登録したデータは、同事業の公式 Twitter アカウントでピックアップして紹介される場合があるため、紹介されたガイドに対する参照数が集中的に増加する傾向がある。

レファレンス協同データベースで参照数の多いガイドを、Cute.Guides 全体でアクセス件数の多いガイドと比較すると傾向の違いがみられる。表2-1および表2-2は、令和元(2019)年7月から令和2(2020)年4月の間にCute.Guides およびレファレンス協同データベース上で多くアクセスされたガイド上位10件の一覧である。Cute.Guides 全体の場合、医学系の検査に関する専門的なガイドのアクセス件数が多い傾向がある。一方でレファレンス協同データベースでは、公式 Twitter アカウント紹介された1位と2位のガイド以外に、語学学習、

表2-1 Cute.Guides でアクセスの多い上位10ガイド (令和元(2019)年7月～令和2(2020)年4月)

1	★微生物の世界 (検査専攻向き・細菌編) (Cuter 作成)	98,107
2	IF/CI の調べ方 -Web of Science と Journal Citation Reports を中心に- (図書館職員作成)	56,055
3	脳波判読のための基礎★ (Cuter 作成)	40,065
4	触れてみよう! 漢方医学と漢方薬 (Cuter 作成)	37,202
5	呼吸機能検査ってなんだろう? (Cuter 作成)	35,342
6	細菌培養の基礎 \ (^.^) / for beginner (Cuter 作成)	34,899
7	医学生版検査値の見方 (血ガス編) (Cuter 作成)	34,639
8	臨床検査における血液の基礎とその病気 (Cuter 作成)	32,579
9	アーヴィング・ゴフマンの社会学～ありふれた「コミュニケーション」を考える～ (Cuter 作成)	29,509
10	h-index の調べ方 (図書館職員作成)	28,889

卒業論文、図書館など、より一般的な学習に関連したガイドに関心が寄せられている。このことから、レファレンス協同データベースとの連携により、従来とは異なる利用者層にも情報が届くようになったことが分かる。

5. Cute.Guides に対する評価

Cute.Guides のガイド記事内容に対する評価は高く、医学系Cuterが作成したガイド「★はじめての実験ノート」は、研究不正防止対策の参考教材として、科学技術振興機構 (JST) の研究公正ポータルからリンクされた^[35]。

また、LibGuides を使用した国内先行事例として、現代図書館情報学シリーズ『改訂 情報サービス論』に、以下のとおり取り上げられた。

「LibGuides は、高機能なパスファインダー作成ツールというだけでなく、図書館やローカルコミュニティの中で、ガイドの価値や、ガイドの作成者が持つ専門性をつなげて最大限に利活用できるサービスとなっている。日本では九州大学附属図書館が先行しており、教材作成支援ツールとして位置づけ、図書館員だけでなく学生サポーターや教員もコンテンツを作成して、内容を増やしている」^[36]

さらに、令和元(2019)年9月には、国立国会図書館カレントアウェアネスに掲載されたウェブ上で提供される「調べ案内」に関する動向レビューにおいて、LibGuides を用いてガイドを作成している代表例として、九州大学附属図書館が訪問調査を受けた上で紹介された^[37]。

表2-2 レファレンス協同データベースでアクセスの多い上位10ガイド (令和元(2019)年7月～令和2(2020)年4月)

1	失敗から学ぶプレゼン小技集 (図書館職員作成)	573
2	九州にまつわる民話や伝説に関する本を読んでみよう! (Cuter 作成)	288
3	留学生向けの日本語勉強ガイド、N1 をとるために (中国語訳付き) (Cuter 作成)	236
4	안녕하세요! はじめてのハングル (Cuter 作成)	203
5	★英語論文の読み方 (Cuter 作成)	188
6	図書館 TA (Cuter) ～伊都の図書館～ (図書館職員, Cuter 共同作成)	172
7	★研究に悩んだら図書館へ (Cuter 作成)	158
8	私の卒論ができるまで: 大坪悠介 (九州大学工学部・2018年卒) (Cuter 作成)	156
9	アーヴィング・ゴフマンの社会学～ありふれた「コミュニケーション」を考える～ (Cuter 作成)	134
10	イアエステを利用した研究型海外インターンシップのすすめ (Cuter 作成)	132

特筆すべきは、令和元(2019)年11月に、第5回図書館レファレンス大賞の最終審査において、Cute.Guidesによる課題解決支援の取組が、図書館振興財団賞を受賞したことである^[38]。図書館レファレンス大賞は、レファレンスサービスの質・回答や、利用促進の優れた事例を表彰するもので、九州大学附属図書館は、レファレンスサービスの利用促進を図る取組事例として「Web学習ガイド『Cute.Guides』による課題解決支援」を応募した。書類審査を経て、11月12日から14日にパシフィコ横浜で開催された「第21回図書館総合展」初日の最終審査において、応募22件から選ばれた3件の候補によるプレゼンテーションを行った結果、文部科学大臣賞、図書館振興財団賞、審査員会賞の三賞のうち、図書館振興財団賞の受賞が決定した。最終審査の質疑応答では、図書館TA(Cuter)にとってのガイドを作成する意義や、累積のガイド作成件数等に関心が寄せられ、審査後の講評では典型的な学生協働によるピアサポートの取り組みであり、地域に対する貢献も意識した事例として高く評価された。図9は、最終審査後に行われた三賞および奨励賞に対する授賞式の様子である。

6. 今後の課題

6.1. Cute.Guidesの認知度向上

九州大学附属図書館が提供するさまざまな図書館サービスの中で、Cute.Guidesの認知度が相対的に低い状況にあることが懸念される。近年のCute.Guidesには、年間100万件を超えるアクセスがあるが、その多くは検索エンジンでヒットした個々のガイドの参照であり、Cute.Guidesというサービス全体として認知されづらい傾向にあると考えられる。Cute.Guidesという名称とサービス内容が、特に学内の利用者浸透するよう、広報の強化や利用者に対するナビゲーションの改善が必要である。

また、3.5で述べた「Cute.Guides大賞」を認知度向上に結び付ける構想もある。例えば、優秀作の審査に



図9 第5回図書館レファレンス大賞 授賞式

際し、図書館関係者だけでなく、一般の学生や教職員にも投票を募り、利用者がCute.Guidesのガイドに目を通す機会を増やすといった方策が考えられる。ただし、ガイドの作成プロセスから関与し、対象ガイドに時間をかけて目を通した後に投票する図書館TA(Cuter)や図書館職員に対し、学生や教職員による投票の場合は、タイトルやデザインなどの表面的な印象で審査される可能性が高く、評価を受ける図書館TA(Cuter)のモチベーションを維持できる審査方法を検討する必要がある。

6.2. 新規ガイドの拡充

Cute.Guidesには今後も新たな記事を追加していく予定である。図書館TA(Cuter)による記事の公開ペースは、1人あたり年1点程度と決して多くない。これは大部分の図書館TA(Cuter)が、学習相談デスクでの質問対応の合間に執筆作業を進めており、ガイド執筆のみにまとまった時間を取れないためである。新たな記事の公開ペースを改善するためには、図書館TA(Cuter)の人員増強や、そのための活動財源の増額と安定的な確保が必要になる。

さらに、留学生に対する学習支援の観点から、英語をはじめとする外国語で作成したガイドの充実も必要である。現在は、PubMedの利用方法を英語で説明したガイド^[39]や、中国人留学生の図書館TA(Cuter)が作成した日本語の勉強方法に関する日中併記のガイド^[40]が公開済みである。今後、外国語が得意な図書館TA(Cuter)や図書館職員の協力を得て、留学生向けのコンテンツを拡充する計画を進めている。

6.3. 既存ガイドのアップデート

Cute.Guidesの運用開始から時間が経つにつれて、過去に執筆された記事の陳腐化を防ぐアップデートが不可欠となってくる。特に図書館TA(Cuter)が作成した記事は、専門分野に関するテーマが大半であることから、図書館職員による内容のチェックが難しい。例えば、卒業した図書館TA(Cuter)の記事を専門分野の近い現役の図書館TA(Cuter)がチェックする、といった体制を今後整える必要がある。

なお、新型コロナウイルスの影響により、令和2(2020)年4月に図書館職員の在宅勤務が開始した際には、在宅で可能な業務の一つとして、Cute.Guidesの記事チェック作業を図書館の全職員に提案した。普段の担当者とは異なる視点で記事をチェックしてもらうことで、多くの改善点が見つかったと同時に、Cute.Guidesの役割を多くの図書館職員が再認識する機会ともなった。

6.4. LibGuidesの価格上昇

外国雑誌や電子ジャーナルと同様に、LibGuidesの使用料金にも毎年の価格上昇がある。九州大学附属図書

館の場合、LibGuides の年間所要額は上昇しているものの、ガイドの利用件数も伸びているため、ガイドに対する 1 アクセスあたりの所要額は年々減少しており、価格上昇に見合った利用状況と考え、契約を継続している。しかしながら、今後一層の価格高騰が生じた場合に契約を維持することが可能か、また、仮に契約を中止した場合にどのような代替案があるかといった点は念頭に置く必要がある。

7. 考察

九州大学附属図書館の Cute.Guides は、初学者の学習支援と図書館の利用促進というサービスの提供目的に沿って、図書館職員と図書館 TA(Cuter)が協力してガイド記事作成を継続した結果、サービス開始から 7 年を経て、ガイド点数は約 2 倍、アクセス数は約 10 倍に増加した。さらに、令和元(2019)年 7 月に国立国会図書館のレファレンス協同データベースとの連携を開始したことにより、従来と異なる利用者層にもガイドの情報が届くようになった。ガイド記事の多様性や質の高さ、図書館における学生協働の典型的事例といった観点からも、Cute.Guides は高い評価を得ている。

このような九州大学附属図書館の事例から、ウェブ上のパスファインダーの管理と提供において、学生協働、および国立国会図書館のレファレンス協同データベースとの連携が有効であったことが確認できる。図書館 TA(Cuter)の大学院生がパスファインダーのコンテンツ作成で中心的な役割を果たすことにより、各大学院生の専門分野や経験を生かした多様なコンテンツの持続的な提供が可能となり、図書館でのピアサポートによる学習支援を拡充することができている。また、レファレンス協同データベースの“調べ方マニュアル”への登録により、図書館の館種の違いを超えてパスファインダーの集積が進めば、より幅広い利用者の課題解決に貢献できるだけでなく、各館が利用している特定のシステムに限定されないパスファインダーの「つながり」が生まれる可能性がある。

8. おわりに

本稿で論じたウェブ上のパスファインダーは、新型コロナウイルス感染拡大後の「ポストコロナ時代」にある大学図書館が、能動的なレファレンスサービスを充実させるために、新たなサービスの提供方法を模索する上で有用であると考えられる。今後も Cute.Guides が抱える課題の改善状況とその効果について継続的に分析を行う予定である。

注・引用文献

- [1] 日本図書館情報学会用語辞典編集委員会編. 図書館情報学会用語辞典. 第 4 版. 丸善, 2013, p. 199.
 - [2] この問題については、例えば、次の文献でも言及されている：藤田千紘. ウェブ上で提供される調べ方案内の展開—米国での実践を中心に—. カレントアウェアネス. 2019, (341), CA1962, p. 20-23. <https://current.ndl.go.jp/ca1962> (参照 2020-06-22)
 - [3] 愛知淑徳大学図書館 パスファインダー Pathfinders. http://www2.aasa.ac.jp/org/lib/j/netresource_j/pf_j.html (参照 2020-06-22)
 - [4] 主な著作は、鹿島みづき, 山口純代, 小嶋智美. パスファインダー・LCSH・メタデータの理解と実践：図書館員のための主題検索ツール作成ガイド. 愛知淑徳大学図書館, 紀伊國屋書店 (発売), 2005, 175p.; 鹿島みづき. パスファインダー作成法：主題アクセスツールの理念と応用. 樹村房, 2016, 174p. など
 - [5] 伊藤白, 小澤弘太. 国内における Web 上パスファインダーの現況調査. 情報の科学と技術. 2008, 58(7), p. 361-366.
 - [6] 文部科学省科学技術・学術審議会学術分科会研究環境基盤部会学術情報基盤作業部会. 大学図書館の整備について (審議のまとめ) —変革する大学にあって求められる大学図書館像—. https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/gijyutu/gijyutu4/toushin/1301602.htm (参照 2020-06-22)
 - [7] 授業資料ナビゲータ | 学ぶ | 千葉大学アカデミック・リンク・センター. <https://alc.chiba-u.jp/pathfinder/index.html> (参照 2020-06-22)
 - [8] 鈴木宏子, 竹内八重子, 中村澄子. 図書館による学習支援と教員との連携：千葉大学におけるパスファインダー作成の実践から. 大学図書館研究. 2008, (83), p. 19-24.
 - [9] 米田奈穂, 竹内比呂也. 戦略的ツールとしてのパスファインダー：千葉大学附属図書館における「授業資料ナビゲータ」の取り組みと展開 (特集 広がりをもたせるパスファインダー). 図書館雑誌. 2012, 106(4), p. 237-239.
 - [10] パスファインダー | 大阪大学附属図書館. <https://www.library.osaka-u.ac.jp/pathfinder/> (参照 2020-06-22)
 - [11] Cute.Guides. <https://guides.lib.kyushu-u.ac.jp/> (参照 2020-06-22)
 - [12] LibGuides - Content Management and Curation Platform for Libraries. <https://www.springshare.com/libguides/> (参照 2020-06-22)
 - [13] 天野絵里子. “つながる LibGuides：パスファインダーを超えて”. カレントアウェアネス-E. (234), E1410, 2013, <http://current.ndl.go.jp/e1410> (参照 2020-06-22)
 - [14] 佐藤康之, 岡本聖, 三谷三恵子. LibGuides の導入と活用：全塾レファレンス担当者会議の取り組み. Medianet. 2015, (22), p. 38-44.
 - [15] 赤堀美和子. 慶應義塾大学看護医療学図書室での LibGuides を利用した情報提供サービスについて. 看護と情報：看護図書館協議会会誌. 2015, 22, p. 52-56.
 - [16] LibGuides Community. <https://community.libguides.com/> (参照 2020-06-22)
- 令和 2(2020)年 6 月 22 日現在. 上記サイトに掲載されている日本国内の導入機関は、神田外語大学附属図書館 (97 ガイド), 関西大学図書館 (111 ガイド), 慶應義塾大学メディアセンター (432 ガイド), NetAdvance (6 ガイド), ProQuest 日本支社 (111 ガイド), 千里&大阪インターナショナルスクール (34 ガイド), 宮崎大学附属図書館 (152

- ガイド), 早稲田大学図書館 (382 ガイド), 九州大学附属図書館 (381 ガイド) の9機関である(ガイド数には限定公開および非公開のガイドを含む)。うち, 慶應義塾大学メディアセンター, 千里&大阪インターナショナルスクール, 早稲田大学図書館は, LibGuides CMS を導入している。LibGuides CMS では, グループ管理, 詳細統計, レビュープロセス管理等の拡張機能が利用でき, ガイドテンプレートの自由なカスタマイズも可能である。
- [17] 兵藤健志, 渡邊由紀子. 図書館職員をハブとした情報リテラシー教育の展開 -九州大学の実践をもとに-. 大学図書館研究. 2017, (105), p. 50-60.
<https://doi.org/10.20722/jcul.1469>.
- [18] “調べ方ガイドCute.Guidesを正式公開”. 九州大学附属図書館. <https://www.lib.kyushu-u.ac.jp/ja/news/913> (参照 2020-06-22)
- [19] “Cute.Guides リニューアルしました”. 九州大学附属図書館.
<https://www.lib.kyushu-u.ac.jp/ja/events/cuteguides-renewal> (参照 2020-06-22)
- [20] Cute.Guides 運用指針. Cute.Guides.
https://guides.lib.kyushu-u.ac.jp/ld.php?content_id=48029455 (参照 2020-06-22)
- [21] 河野弥季. “微生物の世界(検査専攻向き・細菌編)”. Cute.Guides. <https://guides.lib.kyushu-u.ac.jp/bacteriology> (参照 2020-06-22)
- [22] “How do a guide's publication status, guide type, and group type affect its visibility? - Help Center”. Ask Springshare.
<https://ask.springshare.com/libguides/faq/1662> (参照 2020-06-22)
- [23] 九州大学附属図書館 e リソースサポート窓口. “学外から電子ジャーナルやデータベースにアクセスするには”. Cute.Guides. <https://guides.lib.kyushu-u.ac.jp/remote-access> (参照 2020-06-22)
- [24] 九州大学医学図書館参考調査係. “電子ブックの探し方”. Cute.Guides. <https://guides.lib.kyushu-u.ac.jp/ebook> (参照 2020-06-22)
- [25] 星加慧. “★音響生が解説！立体音響ってなに?”. Cute.Guides. <https://guides.lib.kyushu-u.ac.jp/stereophony> (参照 2020-06-22)
- [26] 上土井宏太. “★DNA って何だろう?”. Cute.Guides.
<https://guides.lib.kyushu-u.ac.jp/dna> (参照 2020-06-22)
- [27] “Cuter 本棚”. Cute.Guides.
https://guides.lib.kyushu-u.ac.jp/cuters_selection_books (参照 2020-06-22)
- [28] “自宅で使える！ 図書館 TA(Cuter)おすすめ電子ブック”. 九州大学附属図書館.
https://www.lib.kyushu-u.ac.jp/ja/events/cuter_select_ebooks (参照 2020-06-22)
- [29] 三輪宗弘. “アーカイブ情報あれこれ”. Cute.Guides.
<https://guides.lib.kyushu-u.ac.jp/archivesvisitingguide> (参照 2020-06-22)
- [30] 三輪宗弘. めからウロコの海外資料館めぐり (CPC リブレ: エコーする「知」). クロスカルチャー出版, 2019.
- [31] 九州大学附属図書館 e リソースサポート窓口. “LibGuides のガイド : 九大執筆者ガイドライン”. Cute.Guides.
<https://guides.lib.kyushu-u.ac.jp/libguidesintroduction/kyudai> (参照 2020-06-22)
- [32] 久我立. “★『動物の行動研究』入門”. Cute.Guides.
https://guides.lib.kyushu-u.ac.jp/study_of_animal_behavior (参照 2020-06-22)
- [33] “Cute.Guides の学習ガイドをレファレンス協同データベースに登録しました”. 九州大学附属図書館.
https://www.lib.kyushu-u.ac.jp/ja/news/cute_crd (参照 2020-06-22)
- [34] “調べ方マニュアル詳細: ★英語論文の読み方”. レファレンス協同データベース.
https://crd.ndl.go.jp/reference/detail?page=man_view&id=2000026313 (参照 2020-06-22)
- [35] “国立大 | 機関の取組 | 防止対策 | 研究公正ポータル”. 国立研究開発法人 科学技術振興機構.
https://www.jst.go.jp/kousei_p/efforts_national_univ.html (参照 2020-06-22)
- [36] 村上篤太郎. “発信型情報サービスの展開”. 情報サービス論 (現代図書館情報学シリーズ 5). 山崎久道, 原田智子編著. 改訂, 樹村房, 2019, p. 162.
- [37] 藤田千紘. “ウェブ上で提供される調べ方案内の展開 - 米国での実践を中心に”. カレントアウェアネス. 2019, (341), CA1962, p. 20-23.
<https://current.ndl.go.jp/ca1962> (参照 2020-06-22)
- [38] “【発表】第5回図書館レファレンス大賞 三賞決定”. 図書館総合展. <https://www.libraryfair.jp/news/9513> (参照 2020-06-22)
- [39] 九州大学医学図書館 参考調査係. “An introduction to PubMed (Kyushu University version)”. Cute.Guides.
https://guides.lib.kyushu-u.ac.jp/pubmed_english (参照 2020-06-22)
- [40] 鄭鈺. “留学生向けの日本語勉強ガイド, N1 をとるために (中国語訳付き)”. Cute.Guides.
<https://guides.lib.kyushu-u.ac.jp/JLPTN1> (参照 2020-06-22)



本著作の著作権は著者に帰属します。注があるものを除いて、本著作の内容物はクリエイティブ・コモンズ表示 4.0 国際 (CC BY 4.0) ライセンスの下に提供されています

<https://creativecommons.org/licenses/by/4.0/deed.ja>